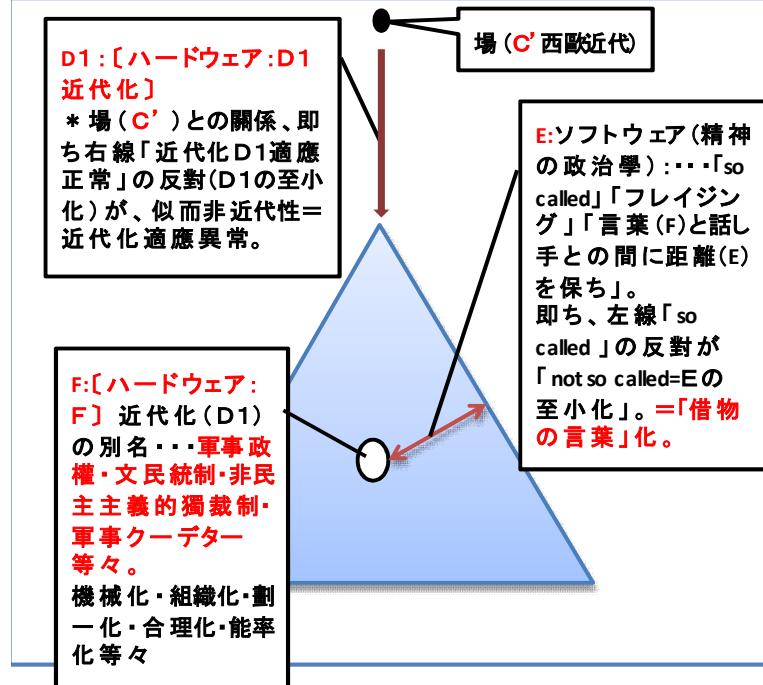


「近代化(實在物:D1)の必要條件は技術や社會制度(潜在的言葉:F)など、所謂『ハードウェア』のメカナイゼーション(機械化)、システムライゼーション(組織化)、コンフォーマライゼーション(劃一化)、ラショナライゼーション(合理化)等々の所謂近代化(潜在的言葉:F)に對處する精神の政治學(Eの至大化)の確立、即ち所謂『ソフトウェア』の適應能力(Eの至大化・附合ひ方・So called)にある」(全七P393上)。



[韓國への日本メディアの偏見]…

「新聞人はそれらの言葉(F)を注意深く用ゐて」
(Eの至大化)ゐない。その理由は①②だと恒存は言ふ。

①「借物の言葉」化、即ち左圖Fへの「not so called=Eの至小化」の弊害。(P331)

②護符・後楯(C2)である外來語への適應異常による偏見(P332)。

つまり、以下文章群の未達成。

* 言葉との附合ひ方である「so called=所謂何々=Eの至大化」「フレイジング=Eの至大化」の効果的用ゐ方で、「自分と言葉との距離の測定が出来」「言葉を自己所有化する事が出来る」。その働きによつて、結果的に場と言ふ對象から自分を分離(非沈面化)させる事が可能となり、しいては「場との關係を適應正常化(D1の至大化)」させる事へと繋がる。

* 「言葉(F)と話し手との間に距離(E)を保ち、その距離を絶え間なく変化させねばならぬ」と同様に、相手と共に造り上げた場と自分との間(D1)にも距離を保たねばならず、その距離を絶えず変化せ得る能力がなければいけない。さういふ能力こそ、精神の政治學としての近代化といふものなのである」(『醒めて踊れ』)と。

* 「自分と言葉(物)との距離の測定が出来る」とは「言葉(物)を自己所有化する」と言ふ事。即ち、意識度を高くし、言葉(物)の用法に細心の注意をし、「言葉(物)を自分から遠く離す事によって、逆にその言葉を精神化し、支配、操作する事が出来る様になる」(P391全七)。さうする事によつて「自分に近付け、言葉を物そのものから離して自分の所有にする事が可能になる」。